

Q8 他の児童と別メニューで学習する場合

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

Aちゃんは、授業中みんなと同じ内容の学習を行うことは難しいようです。それは、学習内容がAちゃんの知的発達に合っていないこともあります。教師が全体に出した指示を自分のこととして受け止められなかったり、指示の意味を理解できないために行動に移すことが難しい場合も考えられます。

〈このような場合の支援 1〉

小学校4年生の知的障害を伴う自閉症の男児。一日の大半を電車の絵を描いて過ごしています。教科の学習では別メニューを準備しなければなりません。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 全体の学習の中で、部分的でも参加が可能な箇所と一緒に学習する。
- ② 保護者の了解を得てから、別メニューの課題を実施する時間を作る。特に、色を丁寧にぬる、ここからここまでを写し取るなど、作業として一人で行えるような学習を用意する。
- ③ 好きな電車から路線図、駅名の漢字へと広げていくのもよい。
- ④ 可能であれば発達段階に応じたプリントを用意する。自力のできる課題とし、それが終われば好きな絵を描くことも認める。
- ⑤ みんなと違う課題を行うことを、本人も含め、周りが納得する状況を作っていくことも必要。

〈このような場合の支援 2〉

小学校6年生のアスペルガー症候群の男児。興味のあることなら、図鑑や本から沢山の知識を吸収することができます。しかし、教師の話聞いて学習内容を理解したり、集団で行う学習では困難を生じる場合があります。このような場合、支援の方法として以下のようなことが考えられます。

- ⑥ 聞いていないようでも、情報を取り込んでいる可能性もある。一般的な学習スタイルでなくても、あまりこだわらずに対応したほうがよいこともある。
- ⑦ 本人と話し合っ、必要なら別課題を行うことも考慮する。
- ⑧ 本人の努力可能な範囲で、計算や漢字などドリル的にこなせる課題を用意する。例えば、給食前までにやり終えるなど、大枠で設定することも必要かもしれない。
- ⑨ 本人の努力が周囲にわかるような手だてを講じる。周囲の理解も本人を育てることにつながる。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子